

「阿蘇の草原キッズになろう！②野焼き編」

- [主催] 国立阿蘇青少年交流の家
 [共催] 阿蘇草原再生協議会
 阿蘇グリーンストック
- [後援] 熊本県教育委員会 阿蘇市教育委員会
- [期 日] 【事前学習】
 令和2年1月16日(木) 一の宮小学校
 令和2年1月22日(水) 高森中央小学校・高森東学園
 令和2年2月18日(火) 阿蘇小学校
 【野焼き体験】
 令和2年2月10日(月) 一の宮小学校
 令和2年2月21日(金) 高森中央小学校・高森東学園
 令和2年2月27日(木) 阿蘇小学校※新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止
- [活動場所] 【事前学習】
 阿蘇青少年交流の家、各小学校
 【野焼き体験】
 阿蘇青少年交流の家、町古閑牧野
- [参加者] 阿蘇市立一の宮小学校4年生 59名(男子33名、女子26名)
 阿蘇市立阿蘇小学校5年生 49名(男子27名、女子22名)
 高森町立高森中央小学校4年生 43名(男子21名、女子22名)
 高森町立高森東学園義務教育学校4年生 4名(男子1名、女子3名)
- [講師] 市原 啓吉 氏(町古閑牧野組合 組合長)
 宮野ひろみ 氏(阿蘇グリーンストック)
 釜崎 笙 氏(町古閑牧野組合員)
 野焼きボランティア 延べ54名
- [担当職員] 尾家 義隆(企画指導専門職) 有木園和志(企画指導専門職)
 田中 英祐(企画指導専門職) 萱野 太一(事業推進係係員)
 米村竜太郎(事業支援室係員) 堀澤亮太郎(事業支援室係員)
 山川 昇椰(事業補佐員)

1 趣 旨

阿蘇郡市内の子供たちに、阿蘇の草原環境の現状を学ばせると共に、草原維持活動を実際に体験させることで、草原環境保全への意識を高めさせる。また、草原維持に携わる人々との出会いを通して、いろいろな生き方・考え方に気づかせ、地域を愛し、地域をよりよくしようとする心を育成する。

2 目 標

- (1) 阿蘇の草原環境の現状と課題や野焼きが果たす役割を知ることができる。
- (2) 阿蘇の草原環境を守っていくためにどうすればよいか、直接の見学や体験を通して学びながら、自分の考えをもつことができる。

3 事業展開

研修プログラム

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00
事前学習		【草原学習】 「野焼きについて学ぼう！」		【体験活動】 火消し棒づくり	
野焼き体験		開 会 式	【体験活動】 松明づくり	【体験活動】 野焼き体験	閉 会 式



事前学習



火消し棒づくり



松明づくり



火入れ体験



火消し体験



閉会式での児童感想発表

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 「大人になったらボランティアとして野焼きを手伝いたい。」「たくさんの人に野焼きや草原の大切さを知ってもらい、未来もずっと草原を守っていきたい。」「野焼きは一人ではできないから、草や花を大切にしていきたい。」などの感想が見られ、阿蘇の草原についての理解を深め、自分たちが次世代の阿蘇の草原保全の担い手になるのだという自覚と意欲をもたせることができた。
- ・ 事前学習にて野焼きにおける安全指導を行うとともに、野焼きの服装についての資料を参加者に配布した。また、野焼き体験前日までに綿製の耐火服を参加校へ児童数分貸し出したことにより、当日は安全な服装で体験をすることができた。
- ・ 参加児童の保護者全員に安全管理についての資料を事前に配布した。野焼きにおける安全管理態勢を示すことで参加者やその保護者が不安なく参加できた。
- ・ 市原氏に加え釜崎氏にも火入れ指導を依頼した。二手に分かれての野焼き体験を進めたことでタイムスケジュール内に収まる活動ができた。

(2) 課題

- ・ 実施できなかった学校については、来年度実施できるよう検討していきたい。
- ・ 事業日とスタッフの出張等が重なったことで、人手が足りない日があった。参加児童の安全確保のため、最低でも2班に1人はスタッフが必要である。予備日も含めた人手の確保が課題である。